

No.160

公民館だより

平成29年 7月

宮津市字由良
由良の里センター内
由良地区公民館

ウォーキングのススメ(一)

由良地区公民館長 枝川 隆 亮

宮津市においては、高齢化が進行し、要介護認定者や一人当たり医療費が増加する状況の中で、みやびビジョン2011における重点戦略「人口減少に歯止めをかけるための『定住促進戦略』」に基づき、基本施策「健康増進と福祉の推進を図る」ための行動計画の一つとして、平成25年度から平成28年度までを計画期間とした「健康づくりアクションプログラム」を策定し、健康で元気に生活できる期間、いわゆる「健康寿命」の延伸を図っています。

健康づくりは、どのような事をすれば効果的なのでしょうか。

計画内容を見てみましょう。

- ① 歩くことからはじめる健康づくり運動の推進
 - ② 早期発見早期治療の推進
 - ③ 介護予防の推進
 - ④ 食による健康づくりの推進
 - ⑤ 高齢者が活躍する場の推進
- 5項目が計画内容の概要となっております。

健康寿命とは、日常的に介護を必要としないで自立した生活ができる期間を指します。

男性の健康寿命は78・24歳、平均寿命は80・02歳、女性の健康寿命は82・37歳、平均寿命は86・18歳(いずれも平成22年度)となっております。

また、住民主体の取り組みの推進として「健康広場」を実施、主体とする健康づくり事業の充実を掲げています。

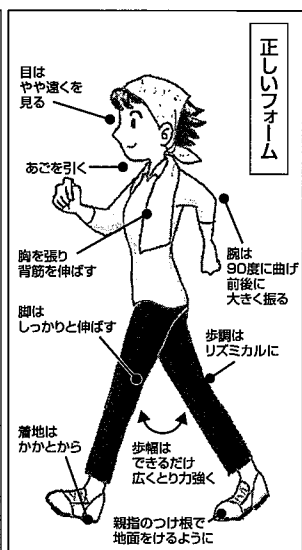
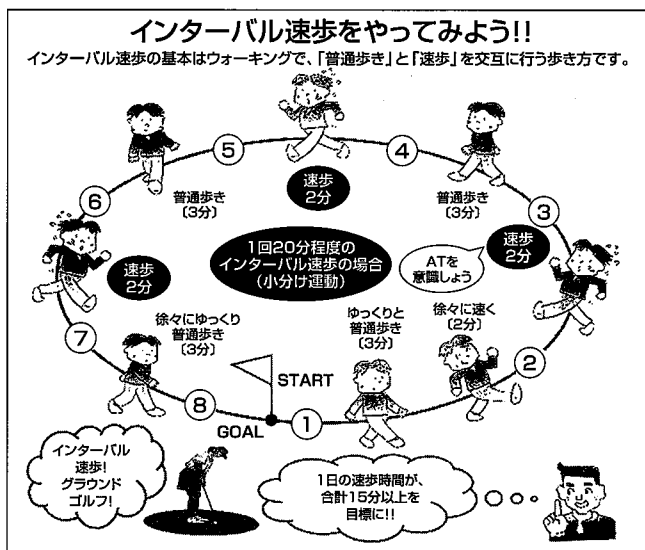
では、どのように歩けば効果的なのでしょうか。よく「インターバル速歩」が効果的と言われています。「普通歩き」と「速歩」を交互に行う歩き方を指します。

インターバル速歩⇨普通ウォーキング+速歩ウォーキングと言うことになります。

普通ウォーキングは脂肪を燃焼させる有酸素運動になり、血圧を低下させ、血流をよくし、肥満や動脈硬化などの生活習慣病対策に有効です。

速歩ウォーキングは炭水化物を利用する無酸素運動になり筋力・骨密度・持久力といった体力を増加させます。

筋力や骨密度の増加がなかったらどうなるのでしょうか。



転倒しやすく骨折し、寝たきりになり、要介護状態になります。このシリーズは数回に分けて掲載します。

平成29年度事業計画

文化部

期 日	行 事 内 容
8月20日(日)	盆踊り大会(子供地藏盆協賛)
11月5日(日)	文化祭
12月中旬	しめ縄講習会
12月中旬	子供料理教室(子供会共催)
1月6日(土)	囲碁大会(囲碁同好会共催)
1月下旬～2月上旬	人権問題研修会
年3回(6月・11月・3月)	公民館だより発行

体育部

期 日	行 事 内 容
4月20日(木)	由良ヶ嶽登山道整備作業
4月29日(土)	由良ヶ嶽登山(予備日 5月3日)
6月11日(日)	グラウンドゴルフ大会(個人戦)
7月9日(日)	四部対抗バレーボール大会
8月13日(日)	四部対抗ソフトボール大会
9月24日(日)	由良地区運動会
10月21日(土)	グラウンドゴルフ大会(団体戦)
1月～3月	卓球教室(土曜日開催)

健康広場ウォーキング

期 日	行 事 内 容
4月23日(日)	地区内ウォーキング
5月14日(日)	神崎穴観音ウォーキング
6月18日(日)	地区内ウォーキング
7月2日(日)	地区内ウォーキング
8月27日(日)	地区内ウォーキング
9月19日(火)	地区内ウォーキング
10月15日(日)	福知山三段池ウォーキング
11月19日(日)	地区内ウォーキングと体力測定
12月4日(月)	地区内ウォーキング
1月7日(日)	新春四社初詣参拝ウォーキング(脇～港)
2月26日(月)	地区内ウォーキング
3月26日(月)	東舞鶴赤れんが博物館ウォーキング

平成29年度公民館運営審議会委員 (順不同・敬称略)

団体名	氏名	団体名	氏名
自治連合会 会長	升田 榮二	栗田中学校PTA副会長	升田 剛弘
脇自治会 会長	奥野 彰	栗田小学校PTA副会長	室澤 志麻
宮本自治会 会長	塩森 哲司	由良松寿会 会長	中西 洋一
浜野路自治会 会長	木村 卓雄	由良観光組合 組合長	田中 昭彦
港自治会 会長	酒本 茂樹	由良実業会 会長	岡本 康一
下石浦自治会 会長	野村 一雄	子供会連絡協議会会長	上羽 貴志
上石浦自治会 会長	岸田 格	由良を良くする 地域会議 代表	中西 一義
前公民館長	飯澤 登志朗	公民館 館長	枝川 隆亮
人権擁護委員	大森 日向子	公民館 主事	千坂 幸雄

平成29年度公民館役員 (順不同・敬称略)

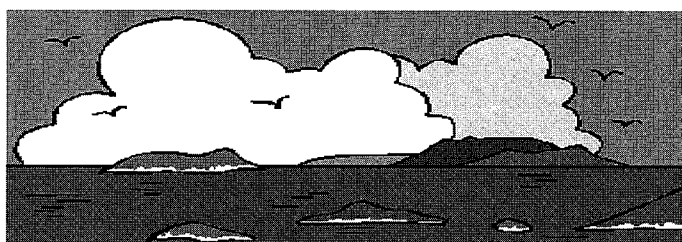
◎印：分館長は代表、部員は部長

○印：副代表、部員は副部长 ☆印は公民館だより編集責任者

館長 枝川 隆亮

主事 千坂 幸雄

地区	分館長	文化 部	体 育 部
脇	一井 勝也	中西 衛 松本 清	磯本 達也 奥野 稔浩 飯田 祥子
宮 本	吉元 誠司	◎川端 利宏 栢岡 さとみ 大石 美雪	◎山本 隆教 中西 一成 升田 優子
浜野路	中西 泰之	○中西 義朗 岸田 成史 大森 和子	吉成 博一 玉垣 光紹 中西 文
港	中尾 満久	☆森川 泰生 山田 八十美	中西 達也 中西 かほり
下石浦	◎新宮 恒一	栢田 衛	野村 馨 山下 艶子
上石浦	○山下 正貴	山下 美千代	野村 雄治
体育部講師			○森田 美砂子



行事報告

主事 千坂 幸雄

◎人権問題研修会

日時：一月二十九日(土)

午後一時三十分～

午後二時三十分

会場：由良地区公民館

参加者数：三十五名

演題：宮津市の人権教育・啓

発に関する今日的課題

講師：宮津市人権教育指導員

大西 寛治 氏

相模原事件に潜む社会背景や優生思想の問題、宮津市人権に関する意識調査の結果で特徴的に出てきた二十歳代の人権意識の低さの問題、同和問題がネット上に現れたりしている中で人々の問題意識が薄れてきている問題、これからの人権教育・啓発の大切さ、日本の人権問題の歴史について話を聞くことができました。

人権の問題を生涯学習として学び続けることの大切さと二十歳代の方が活躍できる取組を考える必要があることを学びました。

◎卓球教室

日時：一月～三月

午後二時～

午後四時三十分

場所：由良地区公民館大会議室



一回：一月二十一日(土) 二名
二回：一月二十八日(土) 五名
三回：二月四日(土) 中止
四回：二月二十四日(土) 六名
五回：三月四日(土) 八名
六回：三月十一日(土) 中止
七回：三月十八日(土) 四名
八回：三月二十五日(土) 五名

始めに皆さんで台の準備をします。準備体操をして卓球開始です。今までに経験されている

方もいますが、ほとんど経験がないという方が参加されています。

ラケットの選び方から始めています。慣れてくるとだんだん楽しくなり、いつの間にか時間がたっています。

卓球が上手になりたいというよりも体を動かしたい、という目的で参加されていました。

毎回参加されている方が多く、卓球に慣れて上手になっていただきました。

◎第五十一回由良ヶ嶽登山

日時：四月二十九日(土)

昭和の日

午前八時三十分～

午後二時

登山者数：百十二名

天気予報では降水確率五十%曇り時々晴れ、雷注意報と強風注意報が発令されました。雨は昼からの予報でしたので早めに下山するようにして実施いたしました。

受付では全員に名前や連絡先を書いていただき、飴玉を配り、子どもたちにはおやつを配りました。

館長からあいさつと安全のた

めの注意点を説明していただき、準備体操をして登山開始です。

小学六年生までの子供の人数は三十二名、最年少は四歳、最高齢は八十歳の男性の方でした。他府県の方が二十六名参加されました。毎年家族で登られる方が目立ちます。



登つているときには汗をかきました。山頂では天気日和で温かく、昼食時は気持ちよく食事ができました。見晴らしもよく、西峰では天橋立がよく見えました。東峰では虚空蔵菩薩に手を合わせました。知恵を授かり賢くなった気がします。

駐在さんも公務で参加されま

した。又、市の広報担当の方が参加され、頂上で記念撮影をしていたいただきました。その写真は市民だよりの表紙に載せていただきました。

由良ヶ嶽は、今まで西峰が最高峰で六百四十メートルとなっていました。国土地理院に確認し、東峰が六百四十七メートルであることが判明しました。

四月二日、有志の方四名、四月二十日、公民館職員、自治連合会、観光組合、松寿会、計十六名で登山道の整備をしていただきました。大雪で倒木が多かったです。

◎由良地区健康広場ウォーキング

○二月のウォーキング

日時：二月二十六日(日)

午前十時～

午前十一時二分

場所：由良地区内山小屋延長コース

参加者数：八名

晴れ、風が冷たく感じられましたが、良い天気にも恵まれてウォーキングには良い環境でした。

歩き終わった時には体が温ま

り、心地よさを感じました。又、梅の花が咲き、春を感じながらのウォーキングでした。公民館↓山小屋↓家門地区↓脇のお稲荷さん↓公民館のルートを歩きました。

歩数 六〇一八歩

距離 四、八三km

○三月のウォーキング

日時：三月二十七日(月)

午前八時三十分～

午前十一時三十分

場所：文珠街道

参加者数：二十一名

曇り時々晴れ、春先で風が冷たく感じられました。八時三十分由良駅に集合し、九時一分発の丹後鉄道で岩滝口駅まで乗車



しました。由良から十九名、宮津駅から二名参加されました。岩滝口駅から天橋立駅まで阿蘇海沿いをしっかりと歩きました。おにぎりとお茶をお渡しして天橋立駅十一時五分発の列車で帰ってきました。

歩数 七二七五歩

距離 四、八三km

○四月のウォーキング

日時：四月二十三日(日)

午前九時～

午前十時

場所：由良地区内森が鼻コース

参加者数：一〇名

春の陽気で心地よさを感じました。田植えの準備をしている人が目立ち、墓地上公園の八重桜をはじめ様々な花が咲き誇り、参加者の皆さんは花の美しさを種に楽しいウォーキングになりました。

歩数 五二五六歩

距離 四、七二km

○五月のウォーキング

日時：五月十四日(日)

午前八時三十分～

午前十一時

場所：神崎穴観音

参加者数：二十二名

晴れ、前日の雨で少し蒸し暑く感じられましたが、たいしたことにはなく、皆さん楽しくウォーキングしておられました。

歩数 九三五九歩

距離 八、〇一km



八時三十五分由良駅発の列車で神崎駅まで乗り、四キロメートル歩いて穴観音に到着しました。毎月十四日は穴観音の祭りで和尚さんのお経があります。岩穴の中に鎮座されている観音様です。いぼりの穴観音と言われています。

ホフマン窯と神社に立ち寄り十一時発の列車で帰りました。

歩数 九三五九歩

距離 八、〇一km

包み込まれる地域の中で

栗田中学校 校長 細見 剛

この度の当初人事異動によりまして栗田中学校の校長として着任いたしました細見剛と申します。微力ではありますが栗田中学校の教育活動に精一杯努めて参りますので何卒よろしくお願いたします。

私事ではございますが、平成十七年度から四年度、保健体育の教師として栗田中学校にお世話になりました。九年ぶりに勤めさせていただくことになり、その当時、保護者としてお世話になった皆様に会議等でお会いすることがあり、あたたかい声かけをしていただきました。大変懐かしく思うとともに心強く思っております。私自身も再び、栗田中学校で子ども達の教育に携わる事ができ、本当にうれしく思っております。

今年度、十五名の新入生を迎え、全校生徒六十名でスタートし、早二ヶ月が過ぎました。三

年生にとつては最も思い出深い行事となる東京への修学旅行も終え、学校としては、慌ただしくスタートした四月から少し落ち着いた状況で教育活動を進めております。生徒も六月に行われる各部活動の大会や丹後ブロック陸上に向け、朝練習や午後の練習に精一杯取り組んでいます。また、授業も落ち着いた雰囲気です。また、授業も落ち着いた雰囲気です。また、授業も落ち着いた雰囲気です。また、授業も落ち着いた雰囲気です。

さて、現在の社会の状況は情報化やグローバル化など社会変化が急激なスピードで進んでいます。そのような中、今の中学生が社会人となった二〇三〇年には、現在ある職業の「三分の二」がなくなっていると言われています。今の子ども達の将来

なりたい職業の第三位に「ユーチューバー」が入っています。中学生の保護者はもちろん、三〇歳前後の社会人の方々でも想像できなかった事ではないでしょうか。また、囲碁やチェスの世界ではたびたび人とコンピュータとの対戦が行われ話題になっていますが、AI(人工知能)による仕事の自動化が進み、人の一週間の勤務時間が一四時間程度と今の半分以下になるとも言われています。今までは仕事も含めた社会の状況が大きく変わろうとしています。

そのような中で人の果たす役割は大変重要なものとなると同時に人として「生きる力」が必要にもなります。文科省では新学習指導要領(中学校では二〇二一年全面実施)で、「今の子ども達が未来社会を切り拓くための資質や能力を育成する」ために「何を知っている」のかではなく、「何ができるようになるか。何を学ぶか。どのように学ぶか」など生きて働く知識や技能を習得し、社会を「生き抜く力」をつけようとしています。

本校では、教育目標を「ふるさとを想い、夢を持ち、自ら学ぶ、逞しい生徒の育成」とし、自立・自尊・自主というテーマの下、学習した知識をどのように使い、自ら学ぶ事によって社会で自立できる力をつける教育を進めています。また、この地域で育つたこと、学んだことを生かし、自分が将来住むであろう地域で貢献し、活躍できる子ども達に育つように教育活動を展開しています。そのような夢を持ち、自分の事が好きだとか、自分も捨てたもんじゃないというような人から頼られ、必要とされる人間になるために、中学校での学びだけではなく、幼稚園や小学校との連携を一層進めた宮津市「小中一貫教育」の推進校としても教育活動を進めていきます。

このように子ども達が安心して自信や誇り、責任感を持つて学べるよう家庭や地域など多くの皆様と協力しながら教育活動を進めて参りますので、皆様方の深い御理解や多大なる御支援を賜りますようお願いいたします。

ご挨拶

栗田中学校PTA副会長 升田剛弘

由良地区の皆様、平素は栗田中学校PTA活動にご理解ご協力をいただき、誠にありがとうございます。

本年度、PTA副会長を務めさせていただくことになりました。なにぶんはじめての事ばかりで至らない点多々あるかと存じます。皆様にはご指導ご鞭撻いただければ幸いです。

五月に実施させていただきました資源回収においては、地域の皆様のご協力のもと無事終わることが出来ました。また、賛助会員のお願につきましても多額のご支援を承りまして厚く御礼申し上げます。資源回収につきましても十一月に第二回目を予定しておりますので、引き続きご協力をお願いします。さて今年度栗田中学校は、新入生十五人を迎え全校生徒六十

人で新たにスタートし、うち由良の生徒は三年生五人、二年生八人、一年生五人と合わせて十八人となりました。振り返れば、

わたくしが当時栗田中学校で学んだ時に比べると半数以下になっており不安に感じることもありますが、全てにおいてマイナスイメージばかりではなく、メリットも沢山あると思います。少人数学級だからこそ学習面においてすみずみまで行き届いた教育や体験を一人一人にさせてやることができ、大人数では味わえない積極性も身に付けることができる、長女が中学三年生になった今、そう考えるようになりました。

近年、子供たちを取り巻く環境は急激に変化し、親として自覚と責任のある子育てがますます強く求められています。子供たちが安心して勉強、部活動に

取り組めるよう、活動方針の一つである「学校・地域・家庭が一つとなり、生徒の健全育成に努める。」を合言葉に、皆様方のご協力をいただきながら取り組んでまいりたいと思っております。



平成28年度 宮津市人権標語入賞作品

支え合う 1人ひとりが 皆仲間 (小学4年生)

幸せは あたりまえのことが できること (小学5年生)

いじめの芽 ぬいたらさくよ 笑顔の花 (小学6年生)

ご挨拶

栗田小学校PTA副会長 室澤志麻

由良地区の皆様におかれましては日頃より栗田小PTA活動にご協力をいただき誠にありがとうございます。

年月の経つのは早いもので、今年で由良小閉校から五年目に入りました。私には三人の子供がおり、今年度で一番末の娘が最後の小学校生活となりました。その最後となる年にPTA副会長という大役を務めさせていただく事になり大変感慨深く思っております。

栗田小統合後も年々児童数は減少しており、今年度は全児童数九二名でのスタートを迎えました。今年度の新一年生は由良から二名、栗田一〇名の計一二名の子供達が新しいランドセルを背負い四月に入学式を迎えました。

今年度の栗田小PTA活動方針、スローガンは「しかる、見

守る、思いやる、あたたかい心を育もう。」です。

どの子供に対しても、いけない時は注意すること。

またおらかな気持ちで見守ること。

そして親身になって向き合うこと。

そんなあたたかい心を広げ、子供と共に成長しよう。

以上の方針を基にスローガンを掲げました。近年では私達の幼少期とは異なり、インターネットやゲーム、携帯等の普及により子供達の遊び方も大きく変わりました。それは私達大人も同様で、ネット上で簡単に人との交流等ができるようになった現在、人と人との繋がりといいものが本質的に見失われそうな危機感を時折感じさせられます。特に今の子供達にとって人との繋がりはネットや携帯が

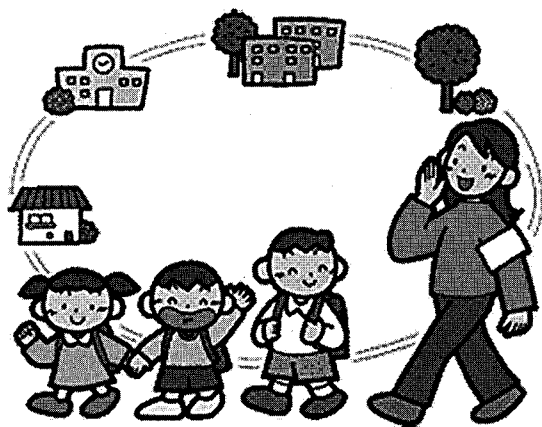
中心となっており、そこから生じる社会的な問題や犯罪も近年よく耳にします。勿論、小学校

の先生から様々な指導をしていただいています。私達大人がもつ子供と直接関わり直接触れ合うことが大事だと思います。それは我が子だけでなく子供に対しても温かい心を持つて触れ合い、また地域の中でも挨拶から始まる触れ合いが人との繋がりになること、直接人と触れ合えることの温かさ、時には人の優しさ、時には人の厳しさを子供達にも知ってもらい、人を大事に思いやれることの出来る大人に育ってもらいたいと願っております。そのためにも由良地区の皆様にはこれまでも子供達を温かく見守っていただきましたが、今後もなお一層その温かさを子供達に直接触れ合いを通じて与えていただければ幸いです。また、時として注意が必要だと感じた事があれば、子供たちの為に叱つてやっ

て下さい。そうして生まれる人と人との繋がりが子供達の人生

の財産になれば喜ばしいことです。

栗田小学校PTAとしても少子化による児童数減少の中、少ない人数だからこそ密に子供達と関われる良さを生かし、栗田小学校ならではの様々な経験が良い思い出となるよう、子供達と一緒に育んでいきたいと思っておりますので、皆様にはご協力をいただきますよう重ねてお願い申し上げます。



四十七年間に渡る スイスでの生活を振り返って(二)

セバーク由良住民 高橋 洋 二

さて、ジュネーブでの新生活が始まった訳ですが、ラジオ、テレビ、日常会話も含めてのフランス語は全てが雑音に聞こえ、私にとっては全く何の意味もなさず、意思疎通の手段を失ってしまい、その歯がゆさと無力感はストレスも伴い、想像を絶する厳しさでした。

人と意思疎通が出来ない事がこれほど辛いものかと、つくづく感じた時期でした。

当時は未だ友人も無く、一人ぼっちで、レストランやコーヒー店に行くと、周囲の客が実に楽しそうにお喋りをしたり、大声でわははと笑っているのですが、其の状況が段々と自分のことを話題にして、自分を皆で茶化しているとの強迫観念に変わり、会話も出来ぬ孤独感、そして自分は、透明な籠の中に閉じ

込められた「カナリヤ」のような無力感と絶望感に襲われ完全にある種の劣等感にさい悩まされると言う、複雑なノイローゼ状態に陥っていたと思います。しかしながら、これらの状況を克服できましたのは、ひとえに自分の若さと好奇心、そして当時、午前中はフランス語の学校、

午後はアルバイトをはじめましたが、母がスイス人と再婚しており、寝る事と食べる事の生活の一大事を支え守ってくれた、義父と母のお陰であり、当時の自分の置かれた状況を振り返えてみれば、スイス両親の存在無くして、自分のスイス生活四十七年間は存在しなかったのではと、兩人に対する感謝の念はどれ程感謝しても尽きせぬ思いです。

ジュネーブ到着以来、周りの

環境は全て珍しく、衣食住のみならず、特にレマン湖畔をそぞろ歩く女性は、皆足首が細くそれぞれ個性ある服装で背筋をピンと伸ばした姿は優雅にしてスタイルも良く且つ美人が多く若造の自分は圧倒されました。それもその筈、ジュネーブ州に住する外国人は州の人口中の四十%にも上ります。日本政府を含む百九十カ国以上の各国政府代表の外交官達と各種国際機関に勤める国際公務員とその家族が住む国際都市としてのジュネーブですから、ありとあらゆる人種が住んでいると言っても過言では有りません。

外国語の言葉と云うものは不思議なもので、日常使わなければ、どんどん忘れますし、逆に記憶として蓄積されると、言葉として自然に自分の口から出て来ます。滞在二年目頃から、徐々にフランス語が理解出来るようになりました。

そんな中で感じました事は、世界には文化、社会制度、言語、民族、風習や歴史等の差異は

多々在るけれども、人間としての基本的価値観(幸せの追求)や感情の推移等も含め日常生活上に於いて考えている事は、国が変わっても大差なく皆同じの実感でした。

しかしながら、私が日本人としてスイス人「ヨーロッパ人」とやはりだいぶ違うなと感じた事も多々ありますので、その例を挙げさせて頂きます。

日本の社会では、太古の昔より「和」を第一に尊び集団による規律を重んじ、その延長線上には「おもてなし」「思いやり」「謙譲」「謙遜」等の美德が現代の日常生活にも生き続けておりますので、欧州と比較し、とても「優しく住みやすい国」と誇りを持って言えると思います。一方スイスの社会で強く感じました事は、「個人主義と自由」を最優先する国と云う事でした。

個人主義の社会では極論しますと、他人の事よりも自分の事を優先する社会と云う事です。その上、個人の生活上に於ける

「自由の権利」と云うものを非常に重んじ大切にしています。しかしながら、これでは社会が纏まりません為、其の価値の大前提の基盤として「権利と義務」と云う縛りの概念を有効に機能させています。私共の息子たちも現地の小学校へ入学すると間もなく、親に対して、何々は、自分の権利である等と主張するようになりました。正に教育の力恐るべしです。スイスでは、皆で一つの物事を決める時などは喧喧諤々参加者の皆が、自分の意見を言い合います。議論の中でお互いの相違点を摺り合せ、より良い結論を導き出す為の討論、議論をよく好みます。黙ってばかりで意見を言わない人は消極的黙認者と看做されるのみならず良い評価を受けません。たとえ意見が分かれても、結論が出た後にはそれを根に持ち後々の人間関係に引きずるケースは稀です。たとえ間違っても自分の考えをストレートに吐き出す事の出来る社会であり、「イエス、ノー」を意思表示し



易い社会ですが、現実には論理と議論で勝負をしなければならず其の分、日本と比べ「手強く、より激しい社会」と実感した次第です。

如意寺の近況

如意寺護寺会代表 藤井 忠

立夏の候、皆様にはご健勝にてご活躍のこととお喜び申し上げます。

如意寺護持会について、日頃、格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

今回前号に引き続き如意寺について、近況を紹介する機会を得ましたことは大変ありがたく存じます。早速ですが平成二十九年二月十一日に行われた節分星まつり・平成二十九年四月十五日に行われたお大師さんの道造りの結果報告、及び平成二十九年四月二十一日に行はれた正御影供の結果と、平成二十九年四月八日〜平成二十九年六月四日に行われた身代わり地藏菩薩の奈良国立博物館展示を紹介いたします。

如意寺節分星まつり
(節分星護摩供)

二月十一日

節分とは本来立春・立夏・立秋・立冬の前日を指しますが、特に立春の前日は旧暦の年の変わり目ということで、新たな一年の無病息災と厄年が巡る方の厄除け祈願を行うものです。

今年も二月十一日(土)如意寺護摩堂で増田住職により「節分星護摩供」を厳修し、皆様の厄災消除・無病息災・家内安全・息災延命の御祈禱が行われ、参詣いただいた方々に、星について説明後、皆様に祈禱のご加護がありますことをお祈りした祈願札を、住職から一人ずつ手渡されました(祈願申込六十五名)。

また、例年通り甘酒の接待と、

祈禱が行われた福豆を、お持ち帰りいただきました。

今年は厳しい寒さと大雪のなか参詣いただき有難う御座いました。

お大師さんの道造り

四月十五日

如意寺を起点に四国八十八箇所霊場の仏様が西山・東山に祀られていて、巡礼が出来るお大師さんの道があります。その道の清掃と整備を、護持会の皆様で行う行事です。

平成二十九年 四月十五日護持会の皆様四十名が参加頂き、厚くお礼申し上げます。尚、毎年新しい前掛けをお地藏さんに掛けてくださる皆様に、重ねて御礼申し上げます。

今年も無事お大師さんの道造りを終了しました、有難う御座いました。

正御影供

四月二十一日

お大師様の御影を掲げ供養法会を行いその後、阿字についての説教を頂いた後に、住職を中心にご参詣の皆様(二十八名)で、身体健康、息災延命を願って大数珠練りが行われ、お経が終了した時、大玉が巡ってきた運のいい人に記念品が渡されました。

以上、今年も無事正御影供を終了しました。ご参詣の皆様をはじめ、護持会の皆様に厚くお礼申し上げます。

身代わり地藏菩薩さんの
奈良国立博物館展示
四月八日～六月四日

身代わり地藏菩薩さんの

四月八日～六月四日

前号で紹介しました、全国の快慶作の仏像を関西で一同に集めて展示する国のイベントに金焼地藏菩薩(身代わり地藏)坐像が、平成二十九年四月八日～六月四日の間、奈良国立博物館に展示されることになり、三月二十一日に奈良国立博物館に向けて如意寺を出発しました(住

職、役員、歴史をさぐる会の皆様が見守る前で丁寧な移動が行われました。)

展示中には奈良国立博物館へ、五月十六日に、由良歴史をさぐる会の十六名の方が、研修にバスで参加され、五月十八日には、正御影供ご参詣の皆様を中心に、十六名がバスで研修に参加されました。皆様のご協力により、好評のうちに研修が終了出来ましたことを厚くお礼申し上げます。

金焼地藏菩薩(身代わり地藏

さん)の展示

は素晴らしく、光り輝いていました、写真集に絵葉書にと、取り上げられて誇らしくも感じます。絵葉書については、一部手に入れてまいりました

ので八月二十三日の例祭で、お配りできればと考えています。

金焼地藏菩薩(身代わり地藏さん)が由良へ帰られた後、盗難等なきよう注意されたいとのことです。駐在さんには口頭でお願いしましたが、現在、升田自治連合会長が、セキュリティについて検討してください。皆様の監視ご協力、お願いします。

*八月二十三日の例祭には皆様のご参詣お待ちしております。



由良の歴史をさぐる会 発足四十五周年を迎えて

由良の歴史をさぐる会 会長 飯 澤 登志朗

奈良国立博物館で六月四日まで、特別展「快慶」が開催されていきました。

巧匠仏師祈りの快作を一堂に集結し多くの観客で連日賑わっていました。

私たちの住む由良からも如意寺の金焼地藏（身代り地藏）が出展され全国の人たちにその美しさが魅了されています。

国宝や文化財指定の「快慶」作の仏像が並ぶ中に、身代り地藏が燦然と輝き、その前に佇む観客に思わず自慢したくなる感情を抑えています。

由良の歴史をさぐる会は、昭和四十七年四月に発足し、今年で四十五周年を迎えました。

発足当時、由良は海水浴場で栄え、民宿も多く古民家の改築、

増築が行われ古い民具や家具がどんどん破棄されていきました。

当時、由良神社宮司今城力雄氏はその状況を危惧され何とか残したいと考えておられました。また同じころ宮本地区の耕

岡功氏の宅地から昔製塩に使用した塩桶が出土、この貴重な文化財を何とかしたいと京都府に補助金を申請し、由良神社の絵馬堂を改修して現在の「郷土館」が開館しました。

発足以来の当会の主な活動を一部紹介します。

- 一 「由良山椒大夫伝説旧跡めぐりのしおり」発刊
- 二 米屋甚平本「山庄畧由来」版木より印刷発刊
- 三 「由良の歴史」第一号発刊
- 四 森鷗外文学碑建立協力

五 山椒大夫屋敷跡に「心願地藏堂」建立

六 各地に案内看板設置

七 庄内由良との交流

八 地区公民館前に上田三四二氏の歌碑建立

九 港照国稻荷神社境内に「蜂子皇子船出の地」碑建立

その他にも由良地区の歴史を次の世代に伝えるため数々の事業を実施してきました。

云うまでもなく、これらの事業は先に述べた今城力雄氏をはじめ、初代会長四方寿朗先生を中心とした当時の会員諸氏が力を合わせて由良の特色を生かして魅力ある地域作りを続けてこられた結果です。

平成二十六年七月、宮津市で開催された「北前船寄港地フォーラム in 宮津・京都」を契機に由良の船頭の活躍が取り上げられて「北前船資料館」の開館に繋がりました。

江戸時代から明治にかけて由良の船頭たちは全国に船出して

いました。

「加佐郡寺社町在旧起」享保十六（一七三一）年の由良村の項には、

『由良村は…（中略）…勿論売船その数百三十艘に及べり。

（中略）春を待つて出船の時は、米・大豆・小豆・等々時分相応の荷物十分仕込み川嵐に帆を挙げ沖の島を目当てに駆け出す。大海の真中に出れば磁石を持つて方角を見合わせ、越前、越中、加賀、能登、庄内、佐渡島、因幡、伯耆、出雲…と全国津々浦々へ入船して商売す』と記載されています。

私たちは、これらの由良の歴史を正しく認識して先人の活躍を偲び伝えていく義務があると考えています。

こうした活動に賛同し、一緒に行動する方々を募っています。

連絡をお待ちしています。

由良が光り輝いていた時代(4)

由良の歴史をさぐる会 加藤 正一

資料編 No. 4

由良川舟運の前に明らかにしておきたいことがある。それは何故由良川の名が付けられたのであろうか？

先賢の方々によると

・加藤 晃氏

【大雲川と由良川】にて

「丹後加佐郡由良村において海に注ぐところから由良川と呼称されるに至ったと考えられる。」

明治二十九年に旧河川法が制定され、本流については単一の名称によって呼ばれることになった。由良川という名称が採用された経緯は分明的でないが、江戸時代から広く使われていたことも有力な理由だっただろう。」

・小谷 一郎氏

公民館だより第一一七号「由

良の地名その六」には「名称を決定する基準として、その河川が海に注ぐ処の地名を取ってつけることにしたのです。河口には由良と神崎の二つの村があった訳ですから全く問題がなかった訳ではないと思いますが由良川と定められたのです。」

先賢の方々の見解に私なりの見解を少し補足しておきたい。明治二十九年の河川法によつて由良川と決められる前は多くは「大川」と呼ばれ、古地図にも大川と記載されている。江戸時代に幕府の事業として日本全土を歩いて測定し大日本沿海輿地全図を寛政十二年(一八〇〇)から文化十三年(一八一三)にかけて作成したのは、かの有名な伊能忠敬！

伊能忠敬が由良に来た！

その伊能忠敬が大日本沿海輿地全図を作成したので当たり前のことだが由良に来ていた。

(まいづる 小林清氏「沿海日記より」に詳細に紹介されている)。

それによると、文化三年(一八〇六)九月十日晴天、宮津領田辺領界より加佐郡由良村、石浦村、まで測る。由良村に止宿、曹洞宗護国山松原寺。

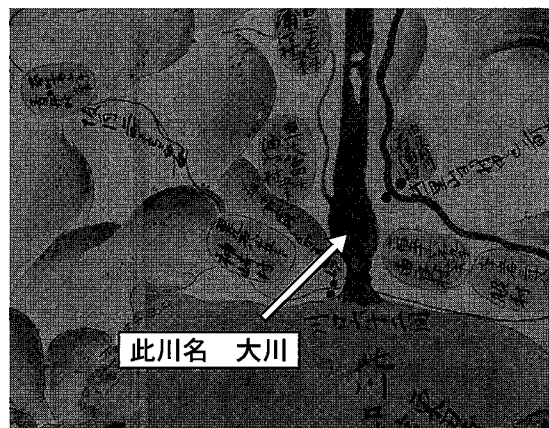
九月十一日大曇天時々雨 由良村を出立し石浦、和江、大川を舟で渡り中山村・・・とある。その伊能図は「大川」と表記されている。

その他にも「大川」表記古地図は次の物がある

- 一、丹後国絵図(京丹後市)
- 徳川秀忠 台徳院様御印
- (一六八八〜一七〇三?)

- 一、丹後国絵図
- 元禄度出来之図面変地等改
- 天保度旧幕府差出候写し
- (一六八八〜一七〇三頃?)

左の古地図、年代は失念しましたが、大川になっている。



文献では、貝原益軒が元禄二年(一六八九)に記した「西北游記」に「福知山に着く、山上には城あり、城下町は広からず、朽木伊予守殿居城也、大川その東北に流れる。川舟多し是より舟に乗りて丹後の由良に下ると云う。」(福知山市史) に対し由良川と記載されている

今井似閑「橋立の道すさみ」享保五年(一七二〇)「由良川という大河なれば大船ども川上

にのぼる」(加藤 晃氏「大雲川と由良川」)

由良川と表記されている古地図に次のものがある。

丹後国大絵図(糸井文庫)

文化十二年(一八一五)正月に但馬国城崎郡湯島の斎藤甚左衛門によって出版された。

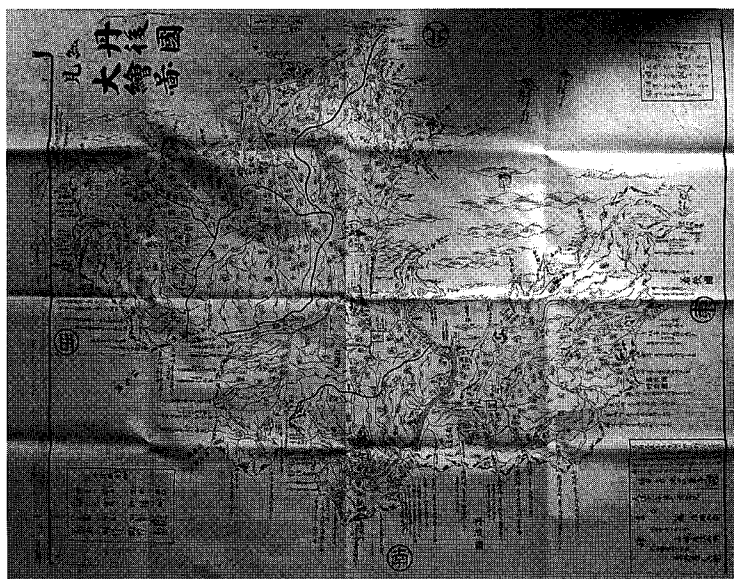
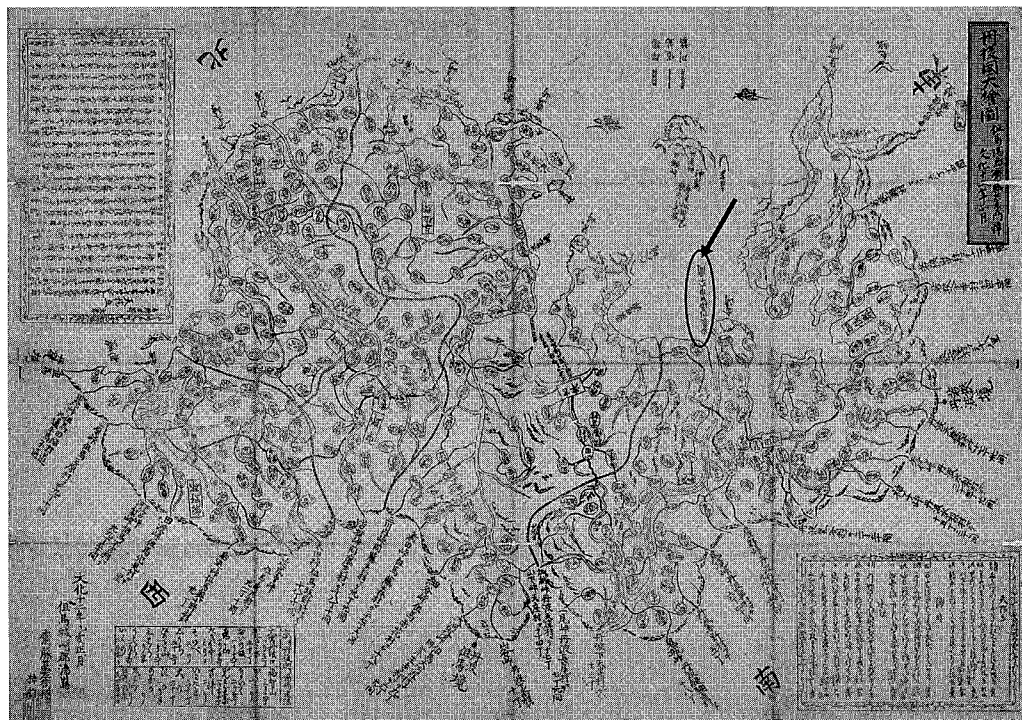
細見丹後国大絵図(原図は熊本藩主旧蔵の永青文庫)天保十一年(一八四〇)がある。

文献や古地図に由良川との記載が見られると言う事は公民館だより第一五七号で述べたように丹後国加佐郡旧語集(享保二十年「由良ノ荘千軒ト云大村也」又丹後国加佐郡寺社町在舊起(享保十六年)に「他国は知らず丹の後、易に於いては、由良を凌ぎ繁昌の湊また有るべからず云々」からも田辺藩において米の生産高に対し湊でより大勢の人口を養い栄えていた村であった事が知られ、由良川表記の古地図がつくられていた。このことなどが背景となつて

河口の村と組み合わせり明治に正式に由良川と決まったと考える。

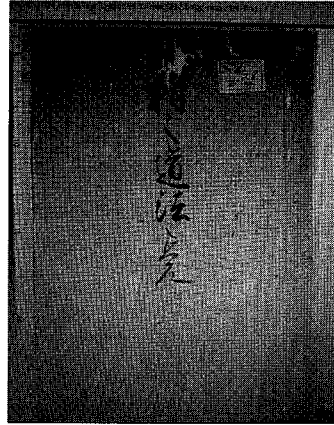
丹後国大絵図 文化十二年(一八一五)(糸井文庫)

矢印 由良川落口巾六十二間

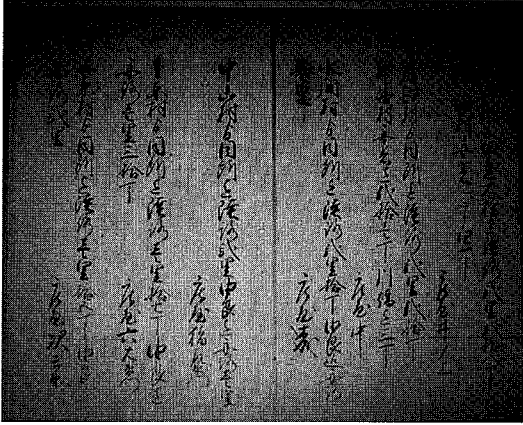


丹後国大絵図 天保十一年(一八四〇)と拡大図

牧野親成が田辺へ初入国した年、すなわち寛文九年（一六六九）に記された「村々道法之覚」（糸井文庫）



由良川舟運に関する部分を抜粋すると舟戸（由良川岸）から由良までの道程がそれぞれ記されている。



村名	由良までの距離
千原村	六里
北有路村	五里
三河村	四里一八町
式ヶ村	四里一八町
岡田百合村	三里八町
志高村	三里三町
久田美村	二里二四町
大川村	二里一二町
中山村	一里

等々二十三ヶ所記されており、由良川舟運が行われ、同時に船着き場も整備されている事が見て取れる。

村名	由良までの距離	し抜粋すると
千原村	六里	寛文九年（一六六九）
北有路村	五里	五月二六日 板倉内膳正より出
三河村	四里一八町	府を命ずる奉書到来
式ヶ村	四里一八町	二八日 急遽藩主の江戸向
岡田百合村	三里八町	発
志高村	三里三町	六月 六日 江戸到着
久田美村	二里二四町	七日 老中残らず挨拶廻
大川村	二里一二町	り
中山村	一里	八日 江戸城にて將軍直

又、前述した貝原益軒が元禄二年（一六八九）に記した「西北游記」に大川その東北に流れる。川舟多し是より舟に乗りて丹後の由良に下ると云う。」ことから解るように、江戸前期には既に川舟が多く、舟運が行われていたことが判る。

村名	由良までの距離	し抜粋すると
千原村	六里	一由良船に渡し方
北有路村	五里	梅村加左衛門、小久江彦六、
三河村	四里一八町	鶴田久助、浅井左五兵衛、
式ヶ村	四里一八町	川村八右衛門
岡田百合村	三里八町	一由良にて本船に荷物積候役人
志高村	三里三町	成田半右衛門、田辺利右衛門
久田美村	二里二四町	鵜殿孫羽衛門
大川村	二里一二町	
中山村	一里	

この時代の舟運に由良がどのように関わっていたか、その一端を示す事例として「福知山藩日記」から関係するところを少し抜粋すると

（福知山市史）より、寛文九年（一六六九）福知山藩主松平氏が肥前国島へ転封となった際、城中、家中荷物を由良川河口の神崎村前に停泊の大阪船・紀州船を雇い入れ発送している。福知山から備船までの輸送には由良村の船が当たっている。（転封の為、半年くらいで一藩あげて全て処理、手配、役割を決めて移転しており、役人の優秀さが判る。移転を嫌がって逃亡の果て捕まり打首になったことも記されている。）このことは具体的に由良川舟運が明らかで、藩の輸送を請け負う由良舟の大きな存在が分かる。

寺社その他編 No. 4

北野御膳宮

港、浜野路地区の人を除いてほとんどご存じないのでは。この神社は

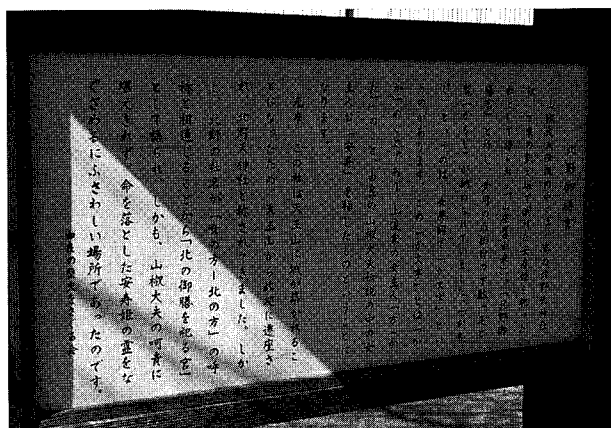


丹後国加佐郡寺社町在舊起享保十六年(一七三一)に「北向き御前と云う小宮湊村にあり北を向いてあり安寿姫の宮なり」と云伝るなり」

江戸中期には安寿姫の宮として存在していたことが解るが北を向いていたとある、現在は東

方向を向いている。

境内に説明揭示板(下記)が建てられているそれによると、北野天神社とあるその由来は？社内の右端の小社の木札の一つ「奉祭祀道實神璽」これが由来をあらわすものだろうか。又天王山から遷座したとあり由来が解ると貴重な資料となる。



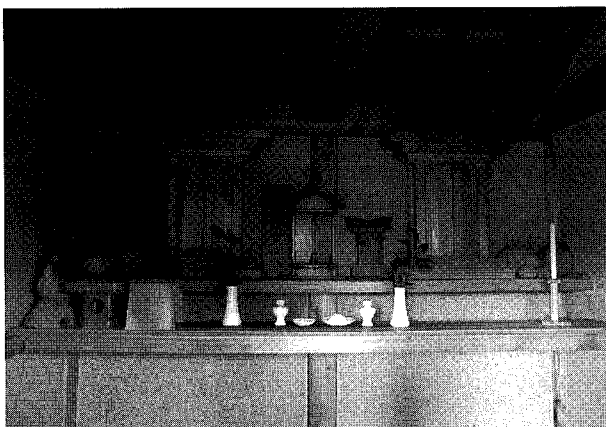
由良の歴史をさぐる会の建立であるが残念ながら今やご存じの方が居ない。

北野御膳宮

「山椒太夫伝説の中では、湊の北野天神社は、下東の飢え坂で倒れた安寿姫を祀った社として語られ(「山庄畧由来」)。「北野御膳宮」と称し、女用の爪掛けの下駄一足とかもじが納められていました。「かもじ」というのは女房詞で「か文字」というのがあります。この「か文字」とは「かか」のことであり、上流家の女主人「方(かた)」のこと、由良の山椒大夫伝説の中の女主人公「安寿」を指したものとということになります。元来、この社は天王山に城が築かれることになったため、天王山から此処に遷座され、北野天神社と称されてきました。しかし、北野の社名が「女の方」北の方」の呼称と相通じることから「北の御膳を祀る宮」として語られ、しかも、山椒太夫の呵責に堪えきれず、命を落とした安寿姫の霊をなぐさめるにふさわしい場所であったのです。」

由良の歴史をさぐる会

「女用の爪掛けの下駄一足とかもじ」が納められていたようですが、現在は社の中に見当らない。覆い屋の中、御神体写真は控える



正面(中央)の小社 一木札
表 上半分と裏梵字

明治二十三年京都府下丹後国
梵字 村中子供安全
梵字 由良村
十月二十三日 港

右隣の小社の中には何もなし

右端の小社 二木札

表 奉祭祀道貫神璽
裏 明治十六年十二月
祭主 今城信保

寛延四年 願主湊邑中老若男女
別當由良山長福寺阿闍梨長観
六月二十三日大工 太右衛門
市郎兵衛 木引 長九良

正面 左隣 一木札

愛悟大神御饌奉璽 官本徳宮

左端の小社 三木札と木仏二体

表 聖主天中天迦陵頻伽□
梵奉建立三寶荒神御宮一宇守護
裏 哀愍象生者我等今敬礼

寛延四年願主湊邑中老若男女
別當由良山長福寺阿闍梨長観
六月吉辰日大工田邊
太右衛門 市郎兵衛
木引 長九良

表 奉祭祀 三柱神璽
裏

明治十六年十二月祭主今城信保

表

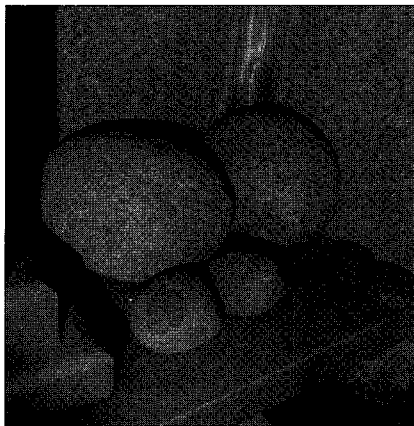
奉勧請道□権現
奉轉讀大般若理趣分當病平愈祈
□
奉勧請秋葉権現

裏 天明四年五月祈念 知足庵

寛延四年（一七五二）
天明四年（一七八四）

木像二体 木柱を半分に割った
仏像と烏帽子像（神像？）
約 高さ二〇cm 幅四cm

この他に左右に複数個の丸い石。これは何を意味するのだろうか？



覆い屋の棟持ち柱の右



手置帆負神
屋船久久神能知神
奉鎮祭 港三宝荒神社
彦狭知神
屋船豊受姫神

覆い屋の棟持ち柱の左



手置帆負神
屋船久久神能知神
奉鎮祭 北野御前宮
彦狭知神
屋船豊受姫神

多くの神様が勧請され祭られていますが、一番古い寛延四年（一七五二）三宝荒神が主祭神？

三宝荒神社が奈具神社に比定されている資料もあるが、ここにあったとすると、丹哥府志（宝曆十三〜天保十年一七六三〜一八四二）親子、孫三代にわたって記され、由良の項に三寶荒神として「荒神の社由良の湊という處にあり、昔安寿姫着船せし處なりといふ。毎年正月十四日社の前に於いて火を焼、是れ其祭りの式なり。安寿姫の凍冷したるを暖むる例なりとぞ。正月十四日は則其来る日なりといふ。」

確認していないが今でも正月十四日、社の前に於いて火を焼いているのだろうか？ 小社といえども古社でありその価値を十分認識する必要があると思う。

『京の蘭方医』

新宮涼庭伝

新宮涼輔

町奉行与力、深谷隼之助、年二十余歳で神経熱(今のコレラ)に罹り、熱勢激甚、福井・高階・三角の諸大医は必ず死ぬであろうと診たが、涼庭は助かると診断した。

患者をたらいの中へ入れて入浴させ、仰向けに寝させ、大桶から小管をひいて少しづつ患者の頭全体にそそぎ、タオルを冷水に浸して胸腹を温布した。六昼夜これを続け、熱がおさまれば床に寝かせ、熱ができれば冷やした。門人数人がこれに従い、涼庭は日夜病家にあつて指揮し、ついに一命をとりとめた。涼庭の晩年に宮中の女官が、涼庭の名を聞き、密かに招いた。時に乳人は六十歳であつたが、にわかに卒倒して人事不詳とな

つた。

衆人狼狽し、宿直の御医もなすところを知らなかつた。涼庭が放血を請うと、宮中を血で汚してはいけない。宮女は月経時には宮中を出る例であり、古来出血のことは未だかつてないと、皆反対した。涼庭曰く、「放血すれば則ち生き、放血せねば、その身体が動揺して助からない。」と。衆官やむを得ずこれを許したので、放血百二十銭、ついに一命をとりとめた。次に、涼閣の『北邪新論』にある涼庭のコレラ治療について述べる、本書第一章では郷里における治療を述べ、第二章では長崎における治療にふれたが、天保年間にもこれが流行し、涼庭は治療にあつた。

(城崎行) 弘化二年(一八四一) 五・涼庭五九歳) 三月、涼庭は一家をあげて城崎温泉へ行つた。この旅行の記録『但泉紀行』によれば、娘、松の病氣療養が主要な目的であつたが、出郷以来三十年、久々に郷里を訪れるという目的もあつた。娘、松は三歳の時に「小腹有水塊降腹膀胱縫」とあり、その後、食も進み、常人と変わらなくなつたが、将来分娩もできないのではないかと、という心配があつた。ところが、天保十三年(一八四二・涼庭五六歳)に至つて突然月経がなくなり、子宮痛を発したので、涼庭はこれはプレんキのいわゆる子宮痛であり、有馬翁がかつて城崎温泉が良いと言つたのを思い出し、湯治に行くことにした。

弘化二年三月十五日、一家を挙げて京都を出発、中村直記・池村順吾・塩見仙蔵の山門人が随行した。旅程は十五日三条↓西院↓老坂↓龜山を経て水戸峠

に一泊、十六日生野↓福知山着、二十日田辺(今の舞鶴)着、二十四日同地を発し由良着、二十五日神崎に出で、二十八日由良、二十九日は七盤八嶺から栗田村↓宮津↓天橋立へ出、四月一日に城崎温泉の油筒屋に着いている。福知山に長く滞在しているが、三月十六日は近藤九門・有馬文哲・瀬川武五が兄弟子孫とともに生野に迎えに来り、それより福知山に入つて有馬家に泊まつている。

この時旧師丹山は七十三歳であつた。十七日は有馬竜寿齋の墓にいたり、祭文に代えて左の五絶を賦した。
結髪荷とニ慈教ラ(結髪して成人したばかりの若者が師恩を受け) 京城幸作レ家(この京都で幸いにも一家を構えることができた。) 涓換無レ所レ報レ(わずかでも師恩に報いることができず) 衝キテレ雨ヲ奉ニ香花ヲ(せめてものこと雨を衝いて墓前に香花を捧げる。)

また、※巖^{いわたにすうた}深嵩台の墓には門人を派遣した。十八日は近藤九門に招かれた。十九日は城主が在府中で藩吏が方金七片を下賜金として持参した。

※の説明：巖深嵩台＝嵩台は、播州赤穂の塩問屋に生まれ、志を立てて京に出、吉益東洞に師事して医学を守り、後に儒者となった。名は恭、通称は帯刀という。嵩台は安永の初、福知山に來住し、邸を十六軒町に賜い、惇明館の学事を督した。

二十日は、さらに美酒佳肴二器が届けられた。二十日は奥裳川を下った。この船行有馬一族と同行である。桑飼村では磁田元彌・杉本藤門が迎えに來り、同日田辺に着、竹田氏方に一泊した。古河娯亭・福島道積らが訪れる。二十一日は舞鶴城に入る。堀内隆平・林丹下・野田一平が列座した。二十二日、上野大夫と会見、牛窪勇を診察（家老牛窪の弟）、学館を見る。二十三日、侯の叔父勘解由君を診

る。牛窪大夫（謙下）に招かれ、また、内海大夫に招かれる。二十四日、国侯に会い、賜物あり、同日初更（夜八時）田辺発、由良に出で、終夜有馬丹山と笑談、二十五日は松原寺に詣つて両親の墓（母は髮塚）を拝した。

〔二十五日朝早く起き、松原寺にお参りして香典をお供えし、亡き父の墓に参る。母の石碑も並んで立っている。こうところの髮塚で亡骸は京都高倉宗仙寺の寺内に葬つてある。母は由良村の岸田氏の出で、女性として守るべき道に節義ある人であったが苦勞も多かった。〕

午後船で神崎浦に出で二十六日は舟遊び、魚獲の状を見物、二十七日はやな網を見る予定のところ波が高く、沙浦^{すなうら}に出て賀茂季鷹^{すえたか}の歌碑と※野口笛浦^{てきま}の文（現存）を見る。二十八日由良ヶ嶽に登り、午後神崎に遊び、冠島を見る。二十九日は七盤八嶺を過ぎ、栗田村にいたり、二十九日、快晴、旅支度を促

し、翁文哲、妹千代と別れ、村を出た。道を七盤八嶺にとり、第一嶺に登った。日はすでに高く昇つた。古い松で大きさが十回もありそうなのが路傍に倒れているのを見た。いわゆる山莊大夫の首引きの松である。思うに千年以上たつたもので世に二つとないものであろう。まことに惜しく思われる。山莊大夫は凶暴でずるがしこい人物であった。伝わっている屋敷というのは石浦村にあり、由良を離れること南に半里ばかりにある。〕

姪の梶川善太夫・門人池村順吾が出迎え、宮津にいた時は妹の阿尓^{おいち}と甥姪、門人家田元良・岡東順が出迎えた。天橋立では「天橋之記」を作る。以上、約十日間は故郷の地にあつて舟遊び及び旧交を温めるのに費やした。（三月二十一日～三月二十八日までの往路診察数は二百四十名である。）

城崎滞在
城崎には、四月一日から二十

五日まで滞在した。『但泉紀行』によると二日に油筒屋（油筒屋六左衛門）のこと、温泉の湯のことが書かれ、五日『名臣言行録』の跋を作り、豊岡大夫舟木氏の嗣子と出石大夫仙石内蔵允に送った。六日は読書、七日は丹山翁が妻と文哲を携え來る。

九日は舟木大夫來訪、時事を談じ、十一日出石侯より賜物、十四日は瀬戸村に舟行して魚獲を見、また「温泉論」を書く。十五日は出石の桜井氏の児の病を診、温泉寺に登る。十六日は大阪から文字大夫らが來ていたので浄瑠璃を聞く。十七日日和山に登る。十八日舟木大夫の室來診、二十一日に水明楼に遊ぶ。二十八日は義正の児病篤しと聞き、八角宗律^{むねのり}にプレんキの小児書と薬品を持参させた。宗律は京より四十里を急ぎ來つた。娘松は少しづつ病状も良況にすすんだ。ところが四月二十三日、

児（松であろう）の病状がすすんだので帰洛に決して二十四日

に出発準備を整え、二十五日に
出発した。(二十五日 早く起
床する。空は雨が降りそうな気
配だ。翁、文哲、宗律、館主、
児女輩、皆今津西岸で、餞はなむけをす
る。)

城崎滞在間の患者数は次の通
りである。

四月五日二人、六日二人、七
日二人、八日二人、九日五人、
十日十四人、十一日十二人、十
二日十四人、十三日二十五人、
十四日二人、十五日十七人、十
六日十八人、十七日二十五人、
十八日十二人、十九日三十六人、
二十日二十五人、二十一日八人、
二十二日二十五人、二十三日十
人、二十四日八人

四月二十五日は城崎を発し、
久美峠を越えて二箇村に一泊、
児生命危篤となる。二十六日宮
津に出で、二十七日由良着、こ
の日患者十二人、二十八日より
郷里由良滞在、五月一日看病、
三日小快、家田を見る。四日門
主と泳ぐ。五日児病毒潰崩、水

泳。六日神崎舟遊、(玄哲と一

族をひっさげ、船を浮かべ、神
崎の沙浦に遊ぶ。しじみ、一斗、
はまぐり百五十枚、黒はた三尾
を獲つたり。) 七日海辺に遊ぶ。

八日知友を診、田辺に行く。九
日由良に帰る。十日磯田元彌もとやと
時務を談じ、十一日浅野縫殿、
植木蘭齋来る。十二日門人に祖

考(祖先。亡祖父、亡父)の墓
参を託す。(十二日、幸蔵と仙
蔵に小田原村に行つてもらい、
香火を我が先祖の墓に供えさせ

た。) 十三日児(娘松) 全快、
この日は妹の記事がある。

曰く、自分は京に出て二十七
年、かつて門人富永顕蔵(檜垣
健蔵)を養い、家祭を奉じさせ、

妹千代を娶せた。顕蔵早世、千
代は寡居八年、三男四女あり、
ために借金が多く、質宅借金四

十五両、義倉(凶作に備えて収
穫物の一部を民から徴収し備蓄
した穀物倉)に納めた金三十両

を借り、計七十五両、今は目分
の一累であると。

十四日帰程に上り、神崎に出、

田辺に至る。夷屋えびすや曾平らを診察、
上野大夫と時務を談じ、住吉堂
で置酒、十五日夷屋曾平宅を宿
とした。十六日田辺発、株迫

(現在の梅迫)、山家を経て檜山
村一泊。近藤一之進父子来訪。
十七日須知↓園部を経て亀山
泊、十八日に杵掛↓檜原を経て

帰宅した。

この城崎行は前後二ヶ月にお
よんだ。この間、出郷以来約三
十年、涼庭の医名すこぶるあが
り、往復ともに多くの名士より
歓待を受け、妹やかつての師並

びに多くの門弟とも会し、又、
多くの患者を診た。

松は帰途一時危篤に陥った
が、涼庭の医術と妻の看病によ
うやく一命をとりとめ、後養子
を迎えて父の跡を継いだ。

『但泉紀行』ここで触れてお
こう。表記には『但泉紀行附温
泉論全』とあり、裏は『鬼国山
人著但泉紀行駆豎齋蔵版』とあ
る。序は齋藤拙堂で次の通りで

ある。

但泉紀行引↓人必ず能く局外
の事を知る。而して局外の事を
能くす。故に通儒の志す所は刀
圭に止まらず。平安新宮涼庭子、
和蘭医法を以て天下に聞ゆ。又、
儒雅を愛して分詞を好み、自ら
鬼国山人と号す。奇士を愛する
也。余其名を耳にすること熟し
て未だ其面を熟せず。頃者其の
北遊に寄せて著わす所の但泉紀
行、余に題目を索む。乃受けて
之を閲するに、其の記する所、
山水名勝、忽たちまちにして異論、忽
ちにして経済時務なり。亦以て
其の平生を想見するに足る。其
人医にして儒を愛し、山人にし
て士大夫、蘭法を以てして訳文
に通じ、其中関せざる所無し。
乃ち知る其の業広く名高きは偶
然に非ざる也。余碌々下梓權挾
を謬あやまり史を為し儒を為し文を掌
る。又一局に止まらず、是に於
いてか山人と交を結び、各々局
外之事を談ず。而して未だ能は
ざる也。是唯他年の包を期し、

局外を為すの日を問はんのみ。
姑しほらく其の儒もとめに応じ、此に数語
を書し以て之を環し、以て今日
之責を塞ぎ、他年結交之地と為
さん。弘化三年七月望、伊勢津
城督官署之東廂に題す。

津藩 鉄研学人 斎藤正謙 印

【説明】

我が家の初代伯州(伯耆の守、
慶応元年死去)おくり名にいう。
から私に至つて、二十二代を数
え、年に直して五百余年になる。
子孫の枝葉が繁茂して、およそ
五十数家にもなる。由良村の宗
兵衛、又兵衛は私の家の本家に
当たる。私の曾祖父仙了は初め
又兵衛といい、医者になつて
人々に薬を施した。祖父の義珍
は道郭といい、その長男を医者
にした。

我が家の家系は清和源氏から
出て、先祖は越後から紀の国に
移住し、上原と呼ばれた。数世
代、五位に任じられた。慶長年
間の(豊臣秀吉から徳川に政権
が代わる時代)永い年月、零落

していた。丹後に移り住んで身
を隠し、武士を棄て庶民となつ
てこの私の代になる迄、十代を
数える。

【訂正】

『由良公民館だより』第百五
十八号の『京の蘭方医』新宮涼
庭伝の中で順正書院開設された
年号が違つていましたので訂正
させて頂きます。

(誤) 天保五年(一八三四)

開設

(正) 天保十年(一八三九)

開設

涼庭五十三歳

福知山城

三月十五日一家
を挙げて
京都を
出立。
十六日生野
↓福知山城
千日田辺の
舞鶴着。
三曾同地を登り
由良着。元日
由良出。十九日は
七盤八儀から乗合
↓翌日天橋立へ
出立。一日に城崎温泉
の油筒屋に泊
る。

弘化二年(八四五年)

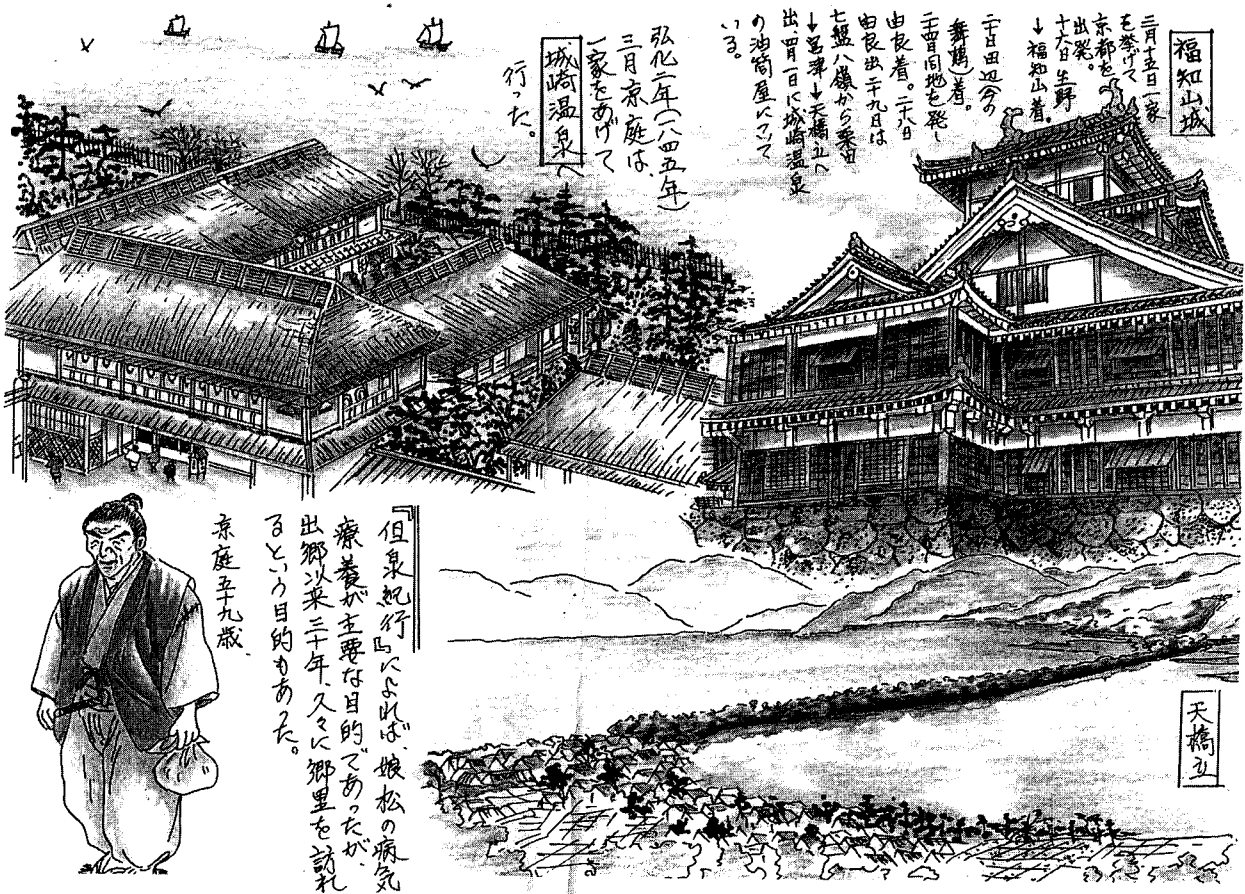
三月涼庭は
一家をあげて

城崎温泉
行った。

天橋立

但泉紀行によれば、娘松の病氣
療養が主要な目的であったが、
出郷以来三十年、久々に郷里を訪れ
るといふ目的もあった。

涼庭五十九歳



ふるさとあやべ

中西 衛

昭和二十五年第一次合併で綾部市になりました。それまでは何鹿郡綾部町でした。綾部町、延村、中筋村、吉美村、西八田村、東八田村、豊里村（以久田、小畑）、位田村、物部村、佐賀村、志賀里村、山家村、口上林村、中上林村、奥上林村の一町一五ヶ村が合併して五三〇〇〇人の人口で綾部市となりました。

私は綾部小学校、綾部中学校、綾部高校、法政大学の出身です。昭和二十一年四月綾部小入学以来、昭和三十三年三月綾部卒業まで、十二年間グンゼ西社宅に住んでいました。又、昭和四十二年より昭和五十年まで八年間、綾部市役所の近くの若松町に住みました。

西町商店街が小学校の通学路

だったため、毎日店の前の路を通りました。社宅を出て、神楽工場の前を通り北西町、南西町を通り、本町、田町を通って上野の小学校に着きました。西町のどの店も克明に憶えています。

エフエツチ煙草店、マエダラジオ店、加藤靴店、河市魚屋、山城屋野采屋、高倉書店、村上鍛冶屋、波多野書店、山本菓子店、大和屋呉服店、よろずや佃煮店、キリン屋洋服店、熊内玩具店、四方仏具店、松江鶏肉店、松竹散髪店、体育社、三ツ丸映画館、芦田呉服店、マルエス文具店等々です。七月二十四日天神祭り、七月二十八日水無月祭り、秋の菊人形の時などは、天神町や西町商店街、本町通りなどは歩き難いほど大勢の人が出

ていました。

又、秋の町区対抗運動会は毎年大盛り上がりで、前の日より準備で小学校の校庭、運動場に竹や紙で作った看板を立て、応援席を作りました。社宅と西町が強く、毎年優勝した。

綾部は風光明媚で山紫水明の地で、南側には四ツ尾山と寺山がそび聳え、東側を由良川が流れている。途中より左に曲がり福知山の方へ向かっている。左折したところが「ましり」といって河原になっているところがあって、向こう岸は岩場になっていた。そこで毎年夏になれば水泳をした。五・六年生になれば向こう岸まで行けたが、二年のころは行けなくて弱った。

その「ましり」より上流の綾部大橋のところには井堰があつて農業用水の青野川が引かれていた。その青野川の流域で、二宮神社よりグンゼ本工場くらいのところは蛍の大棲息地で、夜に

なると取りに行った。一晩で何十匹も取れた。だが、昭和二十八年九月二十五日の十三号台風で全部流されて、全くなかった。

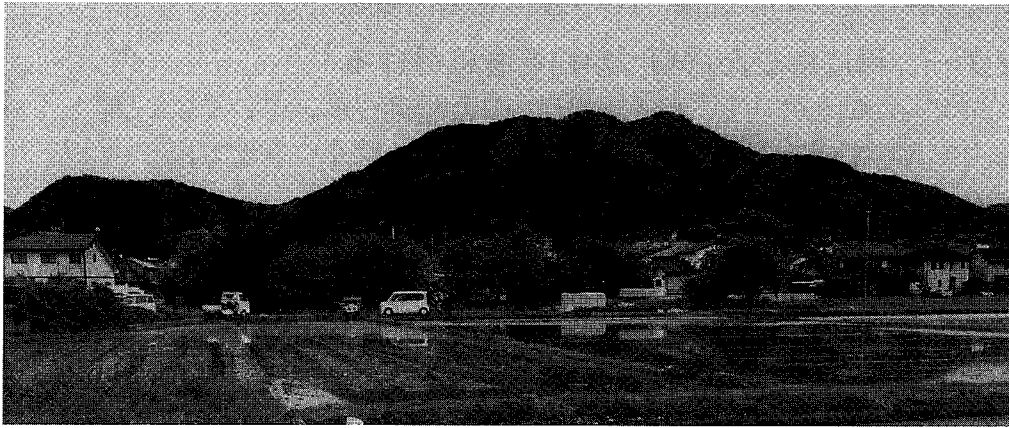
綾部小学校はマンモス校で、体育をするところも二つあり、体育館と体操場があつた。講堂も二階建てで大きかった。生徒数も私の時（昭和十四年生まれ）は一クラス五十三人で六クラスあり、昭和十八年生まれの上の妹（綾部で生まれたので綾部といつた）の時は七クラス、昭和二十二年生まれの下の妹の時は十二クラスもあり、一学年で六〇人以上もあつた。私たちは三・四・五・六年生の時はクラス替えがなく、四年間同じ仲間、先生も同じ室木先生だった。親密になり、今も三年ごとに同窓会をしている。しかし、昭和四十八年一月に火災により全部なくなってしまった。あやべは火災の多いところで、北西町、本町四丁目、グンゼ病院などの

火災もあったが、昭和二十六年の神楽の火災と昭和四十八年の綾小の火災は大きな昼火災であった。

子供の時はよく遊んだ。学校から帰ると家にカバンを放り投げて、暗くなるまで遊んだ。くちくすいらい、釘さし、けんぱ、めんこ、カン蹴り、ビー球、水路作り、タコ上げ、穴掘り、Sカン等々、又、グンゼの廃舎になった工場跡でさなぎの入った俵積み、あか（銅線）探し、レングのセメントはがし、遊ぶ場所も多くあったし、仲間も多かった。

高校時代は中学校の時のバレーボール部のOB・OGの同級生たち男女十名位で土曜日の夜集合して遊んだ。上町公民館、田町公民館、西町公民館などを借りて一晩中朝まで遊んだ。コイン回し、場所取りゲーム、罰則ゲームは手を重ねているのを勝ったチームが叩く。今から考えると、何が面白かったのかと

思うが、自転車に乗って誘い合っつてよく遊んだ。綾部では、四方、大槻、梅原、塩見、村上、白波瀬の名字が多い。



川柳

柘本 清

丹精に野菜作りて老いの身は
一時間かけて食を楽しむ

自分史に 大きく小さく
波の音

薄曇の山の頂き雪化粧
由良の里山三寒四温

遠き日の ロマンに揺れる
水平線

春立ちて花のうわさも息白し
梅の香匂う由良川の里

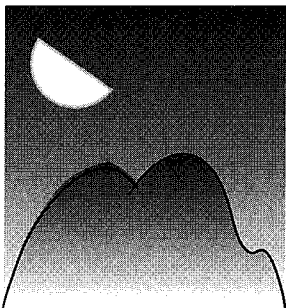
傷心を 吸いこんで行く
海の蒼

遙かなる歴史を語る古都の春
古寺を巡りてこころ清らか

ピラミットの 謎へ星塵の
きらめきよ

空けやらぬ東の空は薄茜
下弦の月は由良岳の上

石くつの 歴史シルクロードに
陽が沈む



朽ち果てた 石くつ祈りの
声を聞く

象形文字の 由来を思う
壁画です

短歌

大森美智子

宮津市 子どもをはぐくむ7カ条

～心豊かな青少年をはぐくむために～

1 忙しくても 家族団らん やすらぎのある家庭

食事のときにテレビを消すなど、会話をする時間をつくりましょう。
会話をすることで家族の絆が強まると同時に、思考力などの発達に大きく影響します。

2 早寝早起き 朝ごはん 楽しく遊んで 元気いっぱい

規則正しい生活に心がけ、基本的な生活習慣を身に付けましょう。
睡眠不足は脳に悪影響を及ぼすなど、心身の発達に大きく関係します。

3 ルールやマナー 場に応じた言葉づかいを身に付ける

ルールを守り、マナーに気を付けて、相手や場に応じた言葉づかいをしましょう。
社会生活をする上で大切であると同時に、思いやる心などをはぐくみます。

4 生活・文化体験 自然体験 社会体験 すべてのことが貴重な経験に

体験活動が豊富なほど、意欲や関心、規範意識などが高いという調査結果があります。
家事を一緒にすることも、知恵や技を学ぶだけでなく、豊かな心などをはぐくみます。

5 朝昼晩 子どもも大人も みんなあいさつ

「おはよう」「ありがとう」「すみません」など、あいさつができるようにしましょう。
あいさつをすることは、コミュニケーション能力をはぐくむ上でとても重要です。

6 いつも どこも きれいに掃除 整理整頓

自宅、公共の場を問わず、いつもきれいにするように心がけましょう。
きれいに保ち、ものを大切に扱うことは、豊かな心をはぐくみます。

7 子どもは宝 地域全体ではぐくもう

子どもは地域の宝です。地域をあげて見守り、はぐくみましょう。
子どもは、家庭と学校、地域社会のかかわりの中で学び、育っていきます。

宮津市青少年問題協議会

編集後記

2017 (H29) 年6月

五月も後半に入り、初夏の暑さを感じるようになりました。

もうすぐ梅雨に入り、空ければ今年の夏は酷暑で雨が降ればゲリラ豪雨になり、大災害が予想され、こまめに水分補給し休養が重要であると気象予報士が発表しています。

ここ十年ぐらいの間にわたくしたちを取り巻く社会環境が大きく変化してきました。過疎化少子高齢化、空き家問題、農業後継者問題など、それらに関わっている地域の活力低下等々。

戦後の社会情勢の急激な変化がいろいろなひびきをもたらししていると考えられます。

グローバルに考えてもデジタル化が大進し、すべての機器操作は、回すから押す時代に変化し大変便利になった反面、時代の変化の中で人と人とのつながりが希薄になつてきたのは残念であると考えています。

このような時こそ、地域住民のみんなが、平和で豊かで、明るく住みよく活力ある地域社会にするため、みんな考え、学習し、十分に話し合つて解決しなければならぬと考えています。(枝川)